「総義歯が上手い！」と言われる為には

石川功和

昨今、高齢化社会を迎え老後の生活設計、医療福祉への関心が高まっている。歯科医療の分野においても審美歯科とならび、総義歯への関心、要求度が高まっている。患者の知識もマスコミを通じ豊富になり、従来のような「入れ歯は痛いものだ、食べ物は限られている、とても歯のある人といっしょのものは食べられない。」では納得しない。今では患者の要求は「見た目が良く、落ちない、普通の物が食べられる入れ歯を。」と当然のように言ってくる。

しかし、総義歯には有歯顎補綴に無い難しさがある。それは対象にする患者が高齢のためと言う事もあるだろう。また、採得された印象が適切かどうかの判断、基準の無い所から顎位を設定するなどと言う技術的な問題も多い。

それでは我々技工士は歯科医師と共同で、患者に受け入れられる、喜ばれる総義歯を作るためにはどのようにすれば良いだろう。

技工士は作業模型上で作業を行うため、歯科医から間接的に患者の情報を受けなければならない。そして、与えられた情報を処理する能力、素地が技工士に求められる。診療室でどのような事が行われているか、製作した技工物(例えば各個トレー)が診療室でどのように使用されているかを我々技工士は考える必要がある。

今回は、総義歯のうまい技工士といわれる為にはどのような事が必要かを、今後現場に出られる皆さんに伝えたいと思う。

略歴
石川功和　Ishikawa　Yoshikazu
1974年　日本大学歯学部付属歯科技工専門学校卒業
同年　　村岡歯科勤務
1993年　東京都港区にてIACを開設
　　現在にいたる

「東京都歯科技工士会副会長」
「日本歯科技工士会認定講師」
「日本歯科審美学会認定士」

＜所属学会＞
日本歯科審美学会
日本歯科技工学会